

国試合格後、NYで洋服の勉強 語学力を薬剤師業務にも生かす

(1ページから続く)

「中学生から洋服を選ぶのが好きで、大学生時代は服を大量に買っていました」と話す横田さん。明治薬科大学に進学し、薬剤師国家試験に合格したが、ファッションを学ぶために服飾の専門学校への進学を考えていた。「どうしても洋服の勉強がしたい」と両親に相談。「どうせなら英語の勉強も兼ねて、海外に留学してみたら」との助言に背中を押され、大学卒業後、米国ニューヨーク市へと渡った。

渡米当初は、英語はまったく喋れなかったが、「街



Panenkaの店舗

中がお洒落で、建物はもちろん、日常生活の中に当たり前のように目を引くようなデザインがありました。行き交う人々も、自由に服を着こなしている人が多かったです」と、大きな刺激を受けた。

午前中に英語の語学学校、午後にアパレル専門学校に通い、休日や空いた時間には、現地のアパレルブランドのインターンに参加する多忙なスケジュールをこなした。「最初は英語で苦戦し、特に専門学校のファッションビジネスの講義は、専門用語だらけで全く分かりませんでした。しかし、約2カ月が過ぎるとだんだん聞き取れるようになりました」インターン先は、現地の日本人が立ち上げたファッションブランド。ファッションショーでの裏方作業を手伝い、プレゼンテーションの技術、自社ブランドの発信方法など、アパレルに関する一通りのことを実際の現場で学んだ。

2年間の武者修行を終え、アパレルに関



機能性とファッション性を兼ね備えた商品



する知識や技能、語学力を体得した横田さん。帰国後、薬剤師として3年間、さらに派遣薬剤師として地方の薬局で2年間働き、店舗設立のための資金を貯めた。そしてパネンカを設立し、ファッション展示会に参加することで、パネンカブランドが少しずつ顧客に浸透してきた。

今やパネンカの経営も軌道に乗りつつあるが、今後も薬剤師の業務は続けていく。米国生活で得た英語は、外国人の患者とのコミュニケーションにも生かすことができているという。

「薬剤師としては9年目になりますけど、患者さんから『ありがとう』って言ってもらえるとうごく嬉しいですね」。

これからも薬剤師の視点から、利便性とデザイン性を兼ね備えた洋服作りを存分に楽しむつもりだ。

失敗や偶然を幸運に

こんにちは。メディセレのしゃっちゃん、児島恵美子です。3月の日本薬学会年会でノーベル医学生理学賞を受賞した本庶佑先生の講演がありました。

本庶先生はあの有名な抗がん剤オプジーボの産みの親。以前、お食事を一緒にさせていただいた森喜朗元首相もオプジーボで命拾いした一人です。自分が亡くなった時の準備を全て済ませていたほどでしたが、薬のお陰で回復し、「本庶先生にはノーベル賞を受賞して欲しいよ」とスペアリブにかぶりつきながら話してくださいました。そんな経緯もあり、本庶先生の講演はとても楽しみにしていました。



メディセレスクール社長

児島 恵美子

国試予備校の現場から

会場は超満員。開口一番「僕のセレンディピティの話をして」と本庶先生は宣言しました。セレンディピティとは、偶然をきっかけに幸運をつかみ取ることです。先生は土星を見たことから天文学者になろうと思い、野口英世さんの自伝に感動して医学に興味を持ったということでした。そしてノーベル賞まで受賞。これからは本庶先生の自伝に感動して、研究や医療を志す人が出てくるのだろうと思いました。

そもそも当社の社名であるメディセレは、メディカルとセレンディピティを合わせて命名しました。人生は様々な出来事に影響を受け、時に思わぬ方向に進みます。しかしそれもセレンディピティ。私も薬剤師国家試験に落ちてしまったことが、現在に至る起点に

なっています。

国試不合格を機に、結果の出る勉強法を考え、当時はなかったゴロ合わせをたくさん創り、国家試験対策講義を始めました。国試はなんとかかなる試験ではないことを先に知ってもらおうと思ってSNSも始めましたし、国試の不合格でメンタルが持たなくなることも痛感したため、自分自身が心理カウンセラーとなってメンタルケアを始めました。落ちたら居場所がなくなってしまったので居場所を作りたいと考え、メディセレを起業しました。これらは全てセレンディピティだと思っています。

失敗や偶然を幸運のきっかけに変えて、薬剤師の知識を武器に、他人にプラスの影響を与えられる人に共になっていきたいと思います。

薬学生のための求人情報サイト

ファーネット2020

病院求人件数

全国の病院・薬局を300件以上掲載!

<https://www.pha-net.jp/>

ファーネット

検索

ナンバーワン!

今すぐ登録!

